

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート項目「学校は児童に基礎基本が定着するよう、指導方法を工夫している」に対して、「よく当てはまる」、「当てはまる」と回答した割合。	4:90%以上	4	☆成果指標92% ○学校公開や学校行事を実施した後は、保護者アンケートを実施し、結果を全教員で共有することで、授業改善に生かした。 ○ペーパーレス化や会議等の時間の見直しを行い、教員の教材研究の時間を確保した。 ○校内研究では「主体的・対話的で深い学びの実践に向けた授業の改善」をテーマに、算数、理科、家庭科の研究授業を実施した。児童の学習への取り組み方について、教科が異なっても共通する点を見出し今後の指導に役立てられる内容となった	A	13	○学校公開の際に挙手する児童が多数いたことが印象的だった。 ○授業内容がとても工夫されている。 ○「主体的、対話的な学び」は常に意識して行われている。児童が自ら考えを話し、それを教員が拾い上げ、投げ返してさらに新しい意見を生み出せている。 ○通知等のペーパーレスは保護者の利便性も上がっている。 ○子供たちがしっかり考えて発言できていた。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:85%以上			B	2	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:80%			C	0	
						1:80%未満			D	0	
た 自 個 め 分 別 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い 支 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート項目「学校へ来るのが楽しい」に対して、「よく当てはまる」、「当てはまる」と回答した割合	4:90%以上	3	☆成果指標84% ○生活科見学(1・2年)や社会科見学(3～6年)では、通常学級の児童と特別支援学級(3組)の児童と一緒に行くようにして交流の場とするようにした。 ○特別支援教室専門員が、特別支援教室(サポートルーム)を利用している児童がいる学級を中心に教室に入って記録をとり、巡回指導教員の指導に役立てた。 ○いじめについてのアンケートを毎学期実施し、どんな小さいいじめでも見逃さない体制を整えた。 ○「学校いじめ防止基本方針」を全教員に配布し、いじめ見逃しゼロを意識させた。 ○ケース会議を毎月実施し、必要に応じてスクールソーシャルワーカー、こども家庭支援センター、品川児童相談所と連携した。 ○「大五スタンダード」を保護者に配布して、学校と家庭での指導の差異がないようにした。	A	11	○3組(特別支援学級)が少人数で学習しているのが良いと思った。 ○授業以外の活動が充実している。学校生活が楽しくなるよう教員がうまく取り組んでいる。 ○思ったより評価が低いが、個人差があることを考慮するとこのくらいかとも思う。 ○サポートルームで話すことを楽しみにしていたり、できることが増えていたりして成長を感じている。非常にありがたい。 ○サポートルームの運営などよく回っている。もっと高評価でもよい。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上			B	4	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:70%以上			C	0	
						1:70%未満			D	0	
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 育 造 6 環 的 境 な を 学 っ く 間 と 安 全 ・ す	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート項目「こどもは安心して学校に通っている」に対して、「よく当てはまる」、「当てはまる」と回答した割合。	4:90%以上	4	☆成果指標95% ○配慮が必要な児童がいる学級には、支援員や補助員を割り当て、全児童が安心して学習できる環境を整えた。 ○毎月1回の避難訓練では、児童にあらかじめ何を想定した避難訓練なのか、事前に学級指導を行い、目的意識をもたせ、真剣に取り組むようにさせた。	A	14	○避難訓練などの様子を見ると、子供が普段から目的意識を持っていることがわかった。安心、安全に学校に通わせられている。 ○教員の親身な対応から考えてこの評価は妥当だと思う。 ○地域の見守りなどがあり、安心な学校。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上			B	1	
						2:70%以上			C	0	
						1:70%未満			D	0	
学 地 学 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し ・ 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート項目「学校は、学校行事などに、家庭や地域の協力を得ている」に対して、「よく当てはまる」や「当てはまる」と回答した割合。	4:90%以上	4	☆成果指標94% ○近い将来に控えている校舎の改築に向けて、庶務課と連携して地域や町会、保護者等との会を設定し、意見交換を行って準備を進めてきた。 ○毎学期1回、地域安全点検を行うことで、児童の放課後の遊び方や遊び場所、交友関係を把握し、日頃の生活指導に役立てた。	A	14	○地域と連携が取れている。大きな事故なく学校に通えているのは地域の方々が子供を見守ってくれているからであり、またその関係を築けているのは教員の努力があったと感じた。 ○さまざまなイベントがあり、大人が協力して子供を楽しませようとしていることが感じられる。 ○校長はじめ教員がPTA行事に参加して暮れてありがたい。 ○地域に根付いた学校として、愛されていると思います。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上			B	1	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:70%以上			C	0	
						1:70%未満			D	0	
学 校 独 自 項 目	学芸会を通して、児童の主体性や豊かな心を育むことができたか。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート項目「学芸会の取り組みを通して、友達と協力することができた」に対して「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	4:90%以上	4	☆成果指標90% ○各学年で計画をする段階から児童の意見を反映させるよう意識し、協力して必要な用具の制作を行わせるなど児童が共通の目標に向けて取り組むことができるようにした。	A	13	○各学年とも練習の成果が出せていたと思う ○6年生が訳のオーディションについて話していて、主体的、自発的で良いと感じた。 ○子供たちが準備段階から一生懸命に取り組んでいた。 ○学芸会は3年に一回なことがもったいないくらい素晴らしいかった。
						3:85%以上			B	2	
						2:80%以上			C	0	
						1:80%以上			D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す